

草花式

卷一

特別
^5
6703



貴
八五
6903

平田



在

南岳名山



國川
訂正



沙水園



子持式

- ・ 清岩好おぬ奇一様不葉版登一ツミ
- ・ 於夕事すまけ也
- ・ 海々ぬきせれ客あ出登りし
- ・ 一月沢十二月并云八々舎日柴門辰
- ・ 川々き 幸々也 但 米系ハ撥あららの
- ・ ちいさき門より家内の写子ツ成の也
- ・ 五人猪のまいつい八月限う契幼子上



建門録子記一と通る上之射のく
 蒲座尤正客の所及發句短冊より徳
 當り夕持多くついで
 一々もいふ堂は多くて寄をの絶えは
 ひともし方一間、乃外ひらけりまゝに
 取巻は方丈を長唱、糟粕をくく

庵寄

六笑唐口戌去

自在菴
 七

上元甲子のとけいから
 猪小といへば板障ありてあけし
 栖といるさるる一とこの其始て
 かゆをとけり

自在菴主

祇徳

えりやもまはるも世よなるこ板

菴の謬於福菓の美 芳徳

あやうま山も鹿は夜若て 圓十

菊人改

甲戌春帖

自在菴門人 佛梵撰

菴室行事

管着よりい 毎日

一白言たり 古例の通り

月次 毎月十二日

点とる

別會 毎月三八

標頭。言拾

祇室忌 卯月廿三日

をせ忌 十月十二日

貞徳忌 十一月十五日

點用は後中文通等只今とて通
祇貞方を沙羅に托して唐壽
草席に毎日通路仕仕

禁奢

分員に〜おろし
あはれ也今朝乃美
推れ〜何日哉
先ッ〜のむ 病
二三人〜茶
攝多〜友み〜

祇徳

竹堂

祇阜改

徳雅



連歌廿賦物

分題

山

初 鹿よー野ハ音よ活なりら

せくくぬるむ水滴乃口

夏さー二魚も遠よ妻の来て

路

浅みとり奥荷行也るの流

野 芝もやき出る梅の口

百姓乃小息子ハ心より

祇因

祇德

風德

雪牛

祇貞

祇蓮

末

昔かゝぬ深山と嶺一今朝の美

大ふくいこよ谷水焼口

十徳の仕付草子於藤原より

船

候居る楫も体むやまの川

梅ハ冬うらうの山口

面白小徳の中子月流て

人

浦の名もい何のあさや波の美

子代乃榎を床の獅子口

二三月以のき一地をけまより

松滴庵

祇門

船歩

來德

露紅

祇德

波道

大椿

完二

祇尹

芭蕉翁三箇附方題

き

目はきし地名も也走らむ 寶舟

執翳乃後よまむむらじ

二ととの右近左近よ東風吹く

郷音

正月の代よ郷音く也和歌の妻

急月一乃紐を念ふ梅くえ

彌麻く分日飾も心川う山の端り

水光

祇徳

宗成

徳丸

祇貞

宗吟

馨

初咲の名も馨一と也花の兒

奥れ一回よいねあくる人

依保姫を依保の山辺よまひ引

徳和

祇徳

向意

切字

七の
や

法抄よか一宛の遠ひあり
畢竟やノ字の並下句化
たりて松くの名目出たり

口合れや

又やあおれけえりれ山うつ

年玉扇の名乗一とく

多新よ啾る宿好耐をゆ

呂隠

祇晁

君山

切レヤ

初鶉や物子紡ぎぬまの声

居燕

沙林 續く山乃ちやけ

祇徳

落の臺草物やよのさひよて

魚光

捨ヤ

死るぬ甲斐見ゆる今世のま

素徳

福壽草ともえ日草とも

完二

雪ハ 郭公を啼止し

來徳

疑のヤ

え日の花や苔れわしひ鳥

祇圓

代々のるる子音く四抽苗

祇文

交里も風の光も如く

祇立

中のヤ

芝浦の雪や露子日けし矢

祇仙

候至るくも若候の杵

桃鏡

百千多美の字ともくませく

祇歡

端のヤ

まじりや一二の雛の声るく

祇庸

雑煮のむれ 雛席かく

祇哲

人の口をよるまふとさかりよ

祇朴

角のヤ

目字度やと赤きもりあけぬ初鶉

百梅

心とも静よ 宥のおさくま

魚光

梅よる先へさくし 柳もそ

宗古

縷のや

朽ぬ芽れさ先しや松のみみと皇

祇莊

梅くえまき柳 皆くさひまの

祇徳

新の葉ハ社目よわくれをなす

得二

この糸よますことやおさへておとすや

たさみや こよみゆのや このや

名所のやのや陽子のや 題略す

五字切

幾子代と誰を足川らんねみと皇

自在庵

玄妙切

人恋し梅や一ふり咲ぬらん

梅月

三辰切

松ハ新休ハ鳳凰 借海老

祇蕉

をまり

梅くぬる山終りあるを初曆

祇長

下知

蛙 聞けらちの啼く声の元

双北房

六義分題

風 ふうふう

とつりうき等の名や四社乃神

左右庵

賦 くらくら

芥菘さあしを珍きまよせん

文可

比 ろろろ

喰つてもあまきこの中ね磯洲松

大可

真 ちかひ

杉風の琴ひきもや門のま

三千女

雅 せいこ

花もれきく金くや今朝のま

水路

頌 いたひ

民のや神子宿うん里あはま

之適

孟春

雪れ声不目笑や水の春

容峨

東風のよ吹こんて春や水のま

古葉

凍解て竈のふつる春色う那

和晴

初鶉のまゆゆさるれまは

隠士 蘓鉄

礼する一魚ゆさるる雑煮板

無徳



其人

祇英改

舞文の上座ハ笛そ松を也

涼葉

重銀屏乃ハまはるる川

祇徳

正二月とやうくまを離る

祇道

其場

え朝やその場をさるぬ礼也

梵薩

天相

き水くも 鶉啼なり朝うすみ

宗古

時節

泡雪や廊の仲と糸履及

雨朝

時宣

言や母言の僧乃口とあく

山鶴

時

手形也又よきつゝあゝ芝の浦

祇月

時分

親と子の和しく勝也雑煮時

竹人

親お

門の松百といひ潜敷喜もなり

佛因



五箇

自在菴附方
人時天心所



人

人毎に老をいさむとて玉の春

祇元

仁者ハ山とてこのむ言

立德

形々咲垣ぬの言を侍候

祇徳

時

喜や梅時の言とてひらきなり

祇道

義をらんく勇む門の方厳

水室

百ちとり沙筆の通王心ゆて

祇徳

天

天下皆お明一言塔やぬの真

祇欽

れ者よ松乃糸あゝれ

祇徳

のしうめい白和子風と親をひて

祇風

心

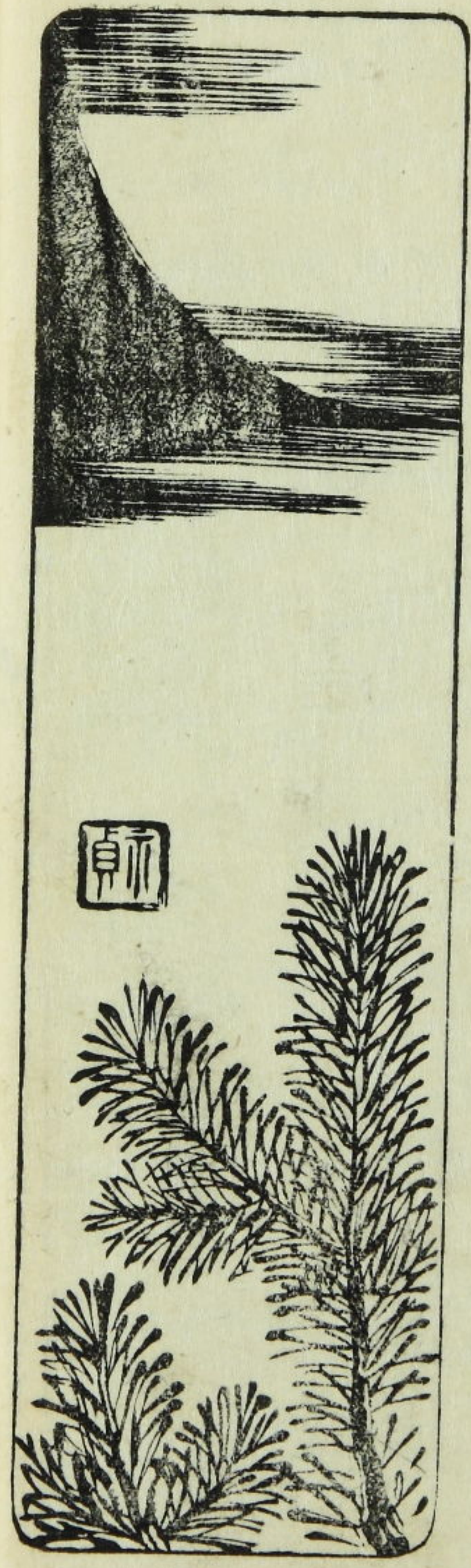
初春竹の實淺也人こころ
智魚の輪取も傍るゆきり梨
朝の書綴も柳れ糸くねく

祇笠
祇徳
冬扇

所

松竹の新定免く真立ぬ
信ハ虫用子叶ハ 年玉
下胃省乃いとちや待ぬん

得二
福來
祇徳



去

え日れ盛見まもや目れから
時も多うくも福來草咲
常ハ茂川も朝の香出つく

自在庵
波道
祇尹

行

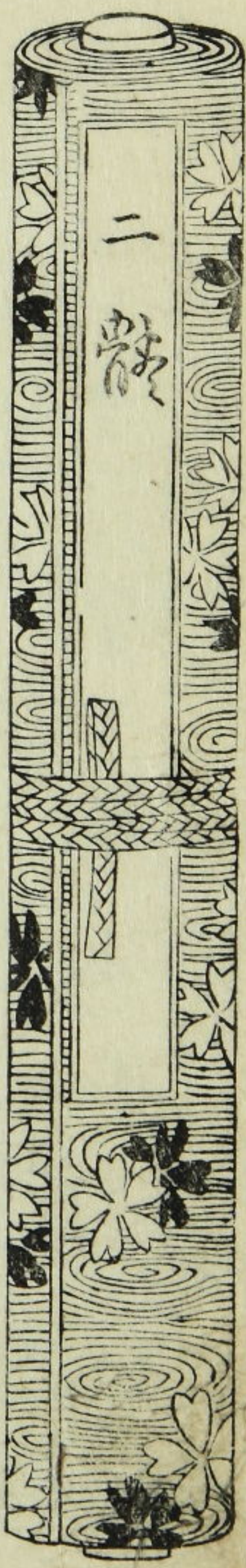
かきくも松もすうへる鶴の真
乳を呑み子も雜煮すこり
水も先子心れぬもこ来て

祇尹
祇徳
波道

草

よふ書く虫寄ういらふ初日か
うけむけく並白よち玉
清らく世も別なきき懐して

波道
祇尹
祇徳



心之沆諧

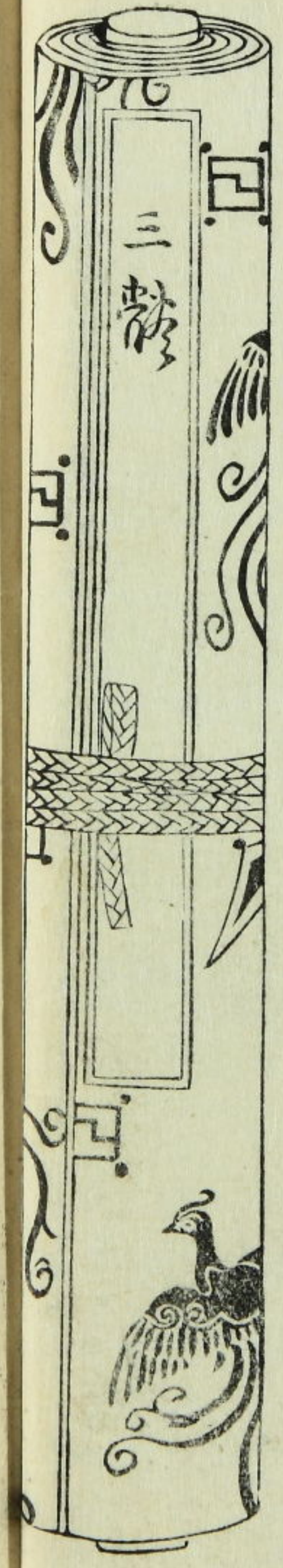
心眼をひらきくひてや花の春
歩のくくく魚の初空
醜くも中よ列子乃風吹く

竹堂
徳丸
自在庵

詞之沆諧

人毎いおとを借連松の春
梅の目さし一の静な於宿
五斗米の糶をもたす蝶舞く

祇貞
徳和
自在庵



幽玄體

曙を人よも見せたるや玉乃春
菊よ山辺乃機嫌とく
愚智くと柳は風よ吹連花く

徳雅
自在庵
百梅

見様體

越るり其山辺一初うはく
鬮かたけりや元日乃旅
深衣の糸よ雪の声深く

祇達
自在庵
祇庸

拉鬼體

魁の餘ハみま沆一花の元
初日のおれぬ星け照
声ひもたおちく雪の啼く

祇獨
自在庵
佛因

起

出る日も多しゆく去れ起りか

了徳

兼

去れ世も兼りゆくと湖の梅

水郷

精

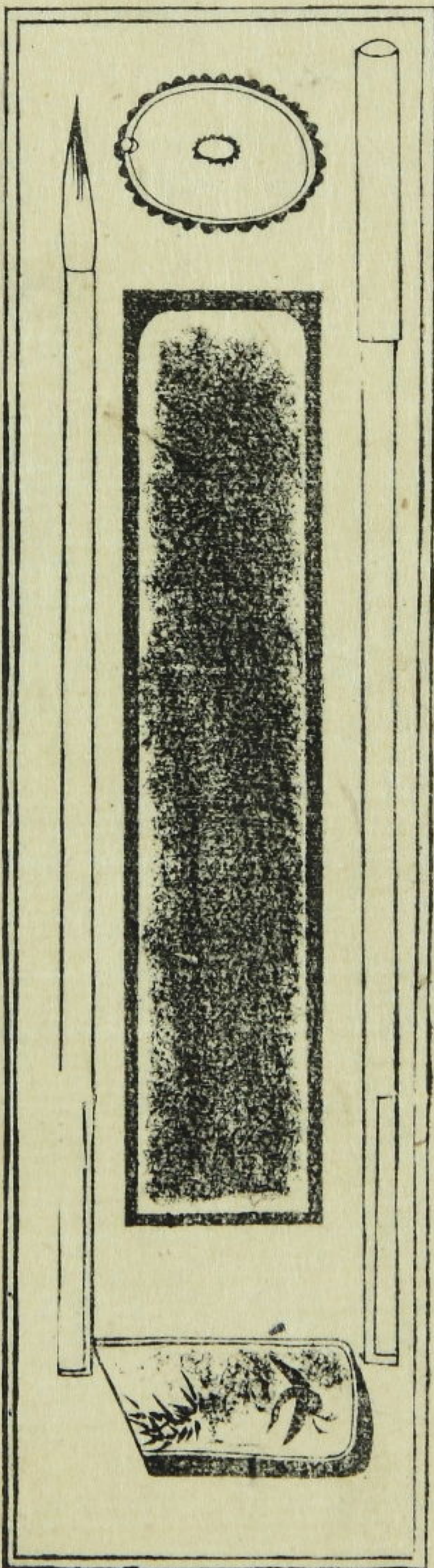
幸も精すり名所り筆如

竹如

合

蓬蒿也岩石池田わぐ水合

祇芳



いさく一海も格字

あまり中も元日法一硯多

立德

さくく一抄并く江南の梅

自在庵

夢ハ先ツ詩経より言言出りく

お前く

こ一海も國字

書初也賞得一市れ寶筆

水室

信縁ニ照らす欄于水梅

自在庵

言乃小麴蜺版蝟乃とれも多し

お前く

濁くよむ格字

紅入水箔も法き也一去良の真

冬扇

初日よ古紙後園乃梅

自在庵

猫もく言言すまのよ言別く

お前く

丸 いろいろ

門のねみぬもろこしはまはいろ

信夕

あううう勝乾蓬萊の梅

自在庵

も深さふ宮の飛もうち宮のまう

おんく

右 まさとせ 家又の旧号を用ひく

半秋改

餘月ある月のかりや日の影

余月

四隅に一句ふ庭中め梅

自在庵

東福寺の懺法よみを誘ひて

おんく



祇貞画



らくもさ

費春を鶯の毛あらも寶に乃

宗吟

源よ門乃七日正月

向意

梅一を椿ハハハの圃

祇徳

のくもさ

三ツの朝いつ進こま並れくもさ

宗成

代乃くもさあを梅る福福

宗吟

儀一もま替へ出れ春もまや

祇徳

金

やまふまされ大吉小判あいろま

向意

拍をきさむ介於乃盈

宗成

月日星月白河くもま啼く

祇徳

銀

去ろり糸の大星ゆり珠乃春
銭乃夷をいよほ 恨も七
面白よ多き花の鏡り 晴りて

福來
祇貞
祇德

茶

幼雪也打志まらるるき 吳漢儀
さてい三河を尾張系 采
春風よ山本里本乃芽と少きと

來德
祇貞
祇德

錢

寛永の寶也通よ 君り春
八百八町 百ちとと 啼
橋とく流とくぬ 沙解と世り

完二
祇貞
祇德



玉

十分よみらくや 玉は春けしき
門松の花 背戸松乃月
嵐雪り 柳の枝と 嘯きと

船歩
祇德
梵薩

槌

世の槌よ 打出の 淡やふ代村美
歌よみ多乃 三十一 去年
吸物い 海苔よ 貝持乃 付めきと

祇蘭
祇德
卯雲

祇貞画紫話

名所寄

二の橋連



陸奥

いづ井の里

ゆり人のいづ井の里まよひて
こゝろよふとせをぬききなり

萬歳や里哉いづ井乃川ひらき

芳徳

萩かき少歌 元日乃鶴

祇徳

筑後

ちとせつ川

君うしめ所もあらふとせ川
いせきの浪乃波矢くらり

名城ゆる川もふ事持津代の妻

祇載

君うも矢一よる水乃乳

曾隠

近江

もち井の宮

あきしむるもちの宮まよひて
はくしむるもちの宮まよひて

みう〜乃もちお音一よ乃妻

竹翠

清一〜とやま〜乃

祇令

近江

む矢〜の山

まきの目乃ひらきまよひて
まきの目乃ひらきまよひて

初日さへ梅系山乃白ひらき

祇完

お〜と躍一〜乃声

祇章

大和

うらひすの庵

こゝろ山まよひて音よまよひて
おを〜と〜と〜と〜と

よ〜我及〜ひま〜の妻

竹路

切〜付〜乃正月の〜ら

素徳

大和
わろくさ山 いさよの山也こねのまの山

地の色ももろ山や河のたれ 曾隠

毛鹿志くけく霧の飛足也 祇圓

祇園の日後 たしらの祇園の日後は土居
あまのりやあまのり

小松川子の日後 祇令

霧の川もろと霧い遊す 祇載

ころまの社の二城のまの松の森をよめて
氷さむんま〜〜〜

わろ松乃赤や砂子の初らす 祇章

雁啼 一景れ春 竹翠

近江
ちくの松系 りやりのちくの松系
むハナナナ 君ハ万代

一天よ松系青く 自在居

地々糸物を糸糸 祇貞

丹後
よろ川よの濱 たのまの君よの濱
のときき波も万代のこえ

飛の子れ生 素徳

や辰れ中 祇完

けるれ郡 君りたの命ふて我ハり
けるれ郡よ世とく

初空や居ろく 祇圓

國主れ袖よ白く 竹路

河内
はるか先の池 ハチツ池の田よ出ん泡音未助

ゆきあきのよのひらけ池や若う集
駕乗と先れ使き 天 祇貞
芳徳

雞旦 ハツめの也

ゆきあきのよのひらけ池や若う集
子免子榎アひらく色弁
水もも既よ 啾然こゝろなす
斗南 祇貞 祇徳

改且 也の格字

ゆきあきのよのひらけ池や若う集
ふくさふりりと集る手玉
床屋とのよ白梅紅梅咲文て
祇正 祇學 祇徳

芳春 平ぬか

床屋志きく 舞ハ懲ぬ今朝の爽
五文か分刹刹 刹首陀も四方は雲
眠竜 志景

青春 てや心切

云の雲の志きく 金初もやかさり松
ゆりしる 裾野も遠く松かさり
大楠 孤堂

三春 やかせむ

芳咲 虫も 鶯色や 何れは集
月香もりしる 望む 初日か
春れ 彩いさや 孝行も 先せむ
御柳 柳松 祇童

正志 卦ノ格字

高き子のゆきよ 望む 若る 初日か
風徳

枝多き人琴子遊り江門の松

陽春 やの格字

葦暁

魚つゝて志かも懐きや松と竹

儿文

箒やおろき之乃松尾

葦暁

くひすの餅摺子人の肩をさす

祇徳

九春 乃む早ぬ

初々々もまよ川今朝の春山

雅示丸

一花四よりひらき教ぬ福壽草

采砂

光風 やり格字

幸ねやみ織々扇る法衣お

可中

小店よたし〜交てまを途て

半月庵

艸の戸や二葉をめて花の葉

百芽

正朔 くの字の格字

く水〜さよ深らん筆の福寿草

暁古

子代を〜く初霧の声

御風

けあ〜り下弦の及りぬ春餅して

祇徳

惠風 りの格字

初産む子乃岩戸れぬ子りり

御風

續つ〜く〜く〜の妻

暁古

出於帆も入る帆もぬき日の楯子

祇徳

王春 やりの格字

大みよの舳縁を〜や那の春

以德

吉ある光も深き初日な

おらん

幸柳〜ま川ぬりつくや山うつ

長秀

媚景

その格字

子室ハセツの如地忌らるる先

五聲

儿性書クニ戸を破摩らう的

漢眠

春もや寧科の如さ(耳)して

祇徳

韶景

心の切語絶する不あり

吾ちるゝに五十三次く何處

漢眠

鈴とまめく竹馬乃友

五聲

足袋ハ絆嵐彦積らるる

祇徳

解凍

也律の也現在の

あゝあゝれ喜新ヤリ明の喜

水羅

扇子く用くや梅れ初日款

祇章

山徳一海又浅一初日の出

馬才

鶏旦

やの格字

新宅の打うらうらや粥ら

祇松

筆れくくちよる縁く

儿文

菴子ハ扇風の裏と鏡ま

祇貞

淑氣

か格字

テ葉今當了初き款初日か

祇晁

桃の本よゆふ秋茶鬱壘

葦騷

暖くもさるはも真ハくき交て

祇徳

良時

現在の切

筑波根ハひらくく

仙呂

梅まくく我考余れ極ノ所

琴水

その白ひうけく梅や省の喜

祇鳳



祇貞画

正目

春の川や千里の約の一ッ歩より

祇堂

殷乃二月と聞傳ふ真

祇徳

あぐらかく碁盤の目の里繋ぐよ

嵐宇

題 いてま 丸

梅柳いつま目のけりぬ乃ま

君山

門礼の声さらかよ

祇堂

塵もかり東風や吹乃儿

祇徳

題 いてま 右

その一機芳野はうま乃ま

魚光

吸物腕乃白よ 永き日

素徳

白魚乃舞よ月のめそく水て

祇徳

切字の下よなひきく

年一ッ考てもうま一介坊の妻

岷江

かー陽とさすあゝのあと

祇徳

やの拾字

世よ箸くま一矢や鶏乃口ひらき

桃鏡

おひもよぬおうさるは炭

祇徳

心切

拍子よき 露の初声を川底

祇ト

祝儀をうりよ ねふ窓の箸

祇徳

治定の水

年の矢形又あつたまゝの日の出

梧栖

正月足袋のまきこころ能

祇徳



松竹も待とる風や 門は美
賑やうり声の六つや 戌の年

稲波 祇鶴

迎陽

山石廻る水音も 今朝の春
指折し幼子のまや ぬのをれ
四方山は心望らるや 美竹をれ

祇風 祇陳 祇赤

明けぬる初日の新や 福来り
日光も抱く 雲の玉乃集

祇水 祇庸



聖節

梅おしるも初めや 我宿る春

卯雲

甘湯

初まや帯足る人形新し
風をよき光とつらく 玉の美

元珍 葎齊

十八のゝの鷹帽子何 松竹春
雛けし声六千屋のくれ

竹磨 野翠

ひさし鶴の羽をのす初やきりく

寫國

嘉節

門杉や竹ハ和合はニタ〜ら
城り香を眞乃水一送りり

祇蓉
祇毛

大皞

沸忍をう〜先やさ〜也沸代の真
葉末ま〜も〜也初り乃出

湖北
德阿

東君

初を辰ふり免よりり明から
甲乃子名も用らる幸や門の真

曉井
嵐宇

勾芒

と〜朝よりり七〜初〜也花の真

一葉洞
真山

清〜か〜鶴も混〜也〜初〜の真
年の芽も赤〜也〜む且小
美〜〜〜の雛〜伸ある
あけ〜今初〜也〜初〜の真
橋〜も〜ハ橋〜も〜玉の真
機音也伊勢路の初〜初目〜

徳刈
祇達
艸也
荷山
藤里
此友

曆始

暮白は初〜も白〜後候
初日初〜も〜候初〜も〜
初〜も〜初〜も〜初〜の真
遠草也初〜も〜也初〜の真
惣願ハ親もれある初〜も

柳水
桂子
葵水
芝蜂
蓮花

四十四の春を白く水

をのつらうより志の花れ袖日か

仕合りし乃馬ぬし一の春

百貫
祇徳

追加

白あつめのひな籠れし
連面子の遊戯くあま

明皇やこころのまはらむ春の園

祇蓮



祇貞画

梅之吟 琴基書画

揚南之も香はる月されは梅の世

百字

もく嘯くうきひまの琴

祇徳

永き自は終二あは基を打て

祇卜

春興之部

御用人のまこりまれ 白桂

龍庵

一輪のまはる 桂ハあるは

眠竜

お明へ

叙ハ緒あり 諸木の中は糸柳

梢雨

雪よ吹ももろし 餅さし笛

祇哲

松の雪も解くハ同し 春のま

祇立

そ解をまよふ日や 春の色

祇文

お明へ

殿守れ 語をぬきみく 梅足が

竹裡

大糸の暗ハあやな 梅の世

子梁

世よまらぬ 春風ある 顔乃柳は

字石

維子啼く一輪りりき桂うら

徳雅

予師杉崎り希も北堂のゆり
しまり子ん今年はおひいとまり
今年ハ只此くもされりる候

一年も延る程りり松のち

佛因

諸國除元之吟

去年の姪柳のさうたをいれ一集候
梓りして自在居の爰と申けて武徳
り希り首途の日たをいれ候あり
りした杖うき坂の然りて病床
久しく経る候氣をいれり

快き真也也屠藕の酒は也

騎西隱士 得牛

除元之吟

武及八王子

夜鳴也雜糞のくも先 名葉

竹逕

歌人ハ志くく善りりあき葉

全

麩斗目先く川林藤子子一初辰

全 尤流

多くも喜や 糞嘗りよ年の市

全

除元之吟

信及上沼方

年くも人の氣くも咲花の真

志水

瀬もくも也年け矢胡の搦りら

全

喰積也海老一さくれ三盡叟

全 李郭

月や日のうくくハ年け大勝日

全

雪乃を返りくもく松の春

風谷

紅梅也師乞の中よさ心をかけ

全

自在花の玉露を——甲の妹さくらに
川柳のうへまきまき予り川屋にまき舎
紙もも乃の真利よとあはくはと先生
の門よあまひけ地の風致よあま
ありとく湖山の三文字と投書——紙よ
まあその返せりり

さふらん

信長上流方掉羽改

とりわけ今納おしあや初日山

湖山

遠き心もと在くま乃芽

祇徳

せふか

祇光坊

爺の季ゆや柏まよかふる少道

湖山

降えり吟

湖山才

上トもあさうかりり伊代の妻

友里

あやふへん奉れ大井川

全

祇門よあそらんを彩ふ

上源坊

ふ入の門一あむや初日歌

淇川

光陰ハちや魚養の師を掛

全

老年始口蹄

壽ハ松りこも初日歌

同

生西

下女同士の化粧くも魚や煤拂

同

全

今朝もよと初ハまかり介助の妻

志桃

惜むらん亦九月乃りの市

全

除えり吟

信別海津

ま柳の向やま恋侍初日歌

徳因

煤の目や小鳥の糞を掃て飛

文級也

全

子伏等れ初初ハまら矢破

竹繁

幾門のいよみや肩あや根松賣
いろも山も今海をまむ松の春 信長松代 竹紫
よみ書と鞠屋の筆書あるまふ 全 柳紫

歳旦 並 春真

葛籥金也

藤 蔭の羽風静よ何乃去 東溟
梅の香を 残るを 東風の一手撫 全

春始

潘列

元日の 席も 持りり 小殿原 子梁
屠蘇の ぬも 川七 雲の雲 祇徳
つわよみの 指も 春乃 色深し 竹堂

やま

賣物や 春のり 野の山打賣 子梁

八将神分題

谷原連

歳徳神

母乃もや 載きよ かり 若花を 刈 祇勇
波 静かり ぬ 蓬萊乃 海 稲軍

大歳成の方 むら 本とま

梅 曆ごち 向てや 拙く 矢 敲石
雪ふるよ ますむ 酒の 足り 山岫

大に 軍牛 好方 こ と

三年に 稷 熟あり 市代 のみ 稲軍

長 軍城 守方 洞小村 水古

大陸 申方 むくひく 産とせす

人の 向方 産 むくひく 初日 柳

一 臥も 眉を 写く 柳

歳 刑末 方 むくひく 嫁まうま

佐 保 娘 方 歌の ぬ

ハ 三 垣 つく 一 處

歳 破 辰 方 むくひく 玉の 妻

新 宅 方 隈 玉の 妻

扇 子 の せ 新 翁 殿 の 札

歳 殺 丑 の 方 むくひく ぬくま

いよ 身 除く 牛 初 婚 菜

水古

拍之

ト之

祇周

敲石

山岫

祇周

ト之

え より 話 音 下 ぬ

祇岱

黄 幡 成 の 方 むくひく 弓 矢 矢

男 山 い さ 酒 汲 人 矢

は 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

水古

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

拍之

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

祇岱

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

稲里

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

祇岱

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

ト之

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

祇岱

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

祇周

子 豹 尾 辰 の 方 むくひく 大 少 便 せん

祇周

魚をハ糸雨の氣言を信ふたり
雑巾の女浪男宿やすらひ

水古
拍之

全

賑いと雲舟も尺せん煤りり

敲石

敗れもま白てまらり年の言

祇勇

翁鷹ハもよ入ものや奉れ飯

山岫

除ええ吟

香よむりよ未もさる一高方樹

艸之

古也よ声ハらもらぬ蛙うら

全

封目れ文字の居りや奉の言

全

お明一久

釣瓶亭

きののちある人とはえ一今野の真

五井

雑汁の世ハ隠きこり梅のむ

全

山彦も回一洞子抱年本樵

全

元旦

川越白陽舎

物の名れもく一さやと秋の春

祇孟

祇よく向よ野老串枿

祇徳

抱くくも独活の白いの独活よて

竹堂

さみさん

川越

ゆきも秋毒もさるや三ツの朝

祇肖

流くく居るいさく串貝

祇徳

そんくくと山葵の白い山葵トく

竹堂

せみか

文のいぬを合まらうらゆる原をけ

祇孟

三井

つませしめしむら 柳の家乃書

祇肖

廻文

ちりき代りも用れ門の枝もきり

川越 素谷

隼えし時

門の田や露も初日を待りけ

川越 祇桑

市人の声や浪打と一の岸

全 硯露

ふよくひらくや梅のぬるま

全 免考

年の瀬も苦もかゝ紙や三の思

全 免考

初日氣うけて用くや月人梅

全 免考

うきも身の幸やと志運

全 免考

曰

さねの年六踏ゆつと富士と白の
て川口新とやしきハ甲斐の根

富士ととくく海とも馬の初日か

甲及

字石

巨も年房もみまに并く宿

祇徳

か枝運と杉海苔の石はさる

梵薩

ここのみ、踏ゆの富士嶺を海の
ことし、ま、甲斐

富士のき又あつぬ年の石はか

字石

甲陽も新を運つ

甲及

壽や幸富士れも川口新

祇蘭

おぬ乃しをゆり年の垣

全

改ま新喜とら繁れ始り那

祇嶺

子の願也静よ風乃わ

全

欲もまこひとつ積るや世はの妻

冠柳

根根く掃く自在の煤も世ら並

全

歳旦

小山連

雞の音やおとろろく先袂のま
ひは射と先せむ天の鹿兒弓
竹垣もまきまき野乃もやきく

千林
祇徳
祇竹

其二

え日よ益くろみれば初喜うま
湯殿く先れば突ひらく戸
五位六位わゆる枝よ東風吹く

惟徳
祇徳
祇國

其三

一輪の用くや家持福来草
光ッッ一者さくふ田つくり
駒もれ約引くま風情そ

祇十
祇徳
古笠

洛王一世の新なり三ッの郎
富士よりく山くよりそ郎のま

祇竹
古笠

せいか

もどおろく笑ひ逢くり年の市
一とせ枝振りつりり書う坂
一の夜也身梅も秋窓の樹
昔季ゆや日向くくる年の市
中くくかつぬ波や海の岸

千林
惟徳
祇十
祇竹
古笠

韶節

奉まよや老をむりくる日の
太一著 太一 雑 莫 雑 タリ
常葉とくく入らきて

祇國
祇徳
惟徳

音旦

搦お系系連

一巻けひらききくも免也初奇の真
精をくひくも厭も只積りも
天の運運字字きくもむもやと初初の志
けられく乃塵新くもき初日か
初初言言や咳くも又さる梅のむ
えりやますくも白きさる白髪

掌仙
井徳
邦秀
春色
習
徳爾

歳終

眩眩松松樂樂くも源源くも年のくれ
春と結結んよもくもくも一一扱
夜夜の扱扱あつくも嬉嬉くも年年れ書
夕夕さきさる計計の目目くもくも年の書

掌仙
井徳
邦秀
春色

来るまき杖杖扱扱きよせり年の音

童

かり

海山海山と越越くも中中くもくも年のくも

徳示徳示

より新新年年もあつくも咳咳くも果果書書るも

喜助

さるくもくも愁愁るもさるも年年れ書

民泉

老老の波波はうつるぬ年年れ漆漆る也

祇國

除えく吟

履端

川越連

えりやあつる魚魚代代らぬ松松の声

水徳

みづけくも玉玉の真真くもやも盛盛

祇仲

憶憶立立産産業業

同

初初年年や免免又又くも免免くも初初曆曆

尾海

ふ代代うもやうりくもぬ穴穴の川川勝勝

至江

歳季

世の世活の樹もさしおく事なき
佳果も実るや苗人ともり同
高き木も我と形をとりり

歳首

伊代もさし四百余別れ店卸
苗圃や家もさしき母乃咲

我も神者の終り入り

みせもさしやのちから連く内さか
伊代もさしや宇宙も満る玉乃春
船形もさし東岳の川や玉の妻

書集

水徳 祇仲 尾海 素雞 里扇 文花 秋屋 幸屋

心能也又さるさるをねの市
傾城乃尾尾をえくや大海日
十もさし腰の以坂乃師をか
商人も物好 又も師をね
献立れおや賞ひりり年の市
除け一抜待り新や福妻草
除く家も灯やさる年了後
年の尾も夢の上れ大漆

歳旦並歳暮

福妻皆如意急満乃玉の真
心也さるさるたし扇れさるぬ

古河静楽亭主人

蘭風 全

歳旦

佐倉

有うらや我くとしと伊代の春

君羨

拾芥枘乃も草十二枝

祇徳

棚産水金の隅よ窓あけて

祇貞

全

同

又是より日よ射り初白小

獅巖

福寿草よ緑備くや之の春

桐枝

よもぎや木乃福り香も射也

之風

元旦

同

艸紅の兄や初日よ福壽草

祇辨

屠蘇先ッ祈り款の愛敬

獅巖

常より足取富まり今年ハ恵方よて

君羨

せむを

滑りぬ身ハ楽しおと年のくれ

君羨

大と〜也彦右乃銘らさるら

獅巖

よる年も忘るし時也大みそ

祇辨

梅よりも家先うけん年亦賣

桐枝

屠蘇ハ并よせりの一夜也年花

之風

初老を賀〜

佐倉

半初也老〜の字の初〜けき

蕨采

り〜也樂する人カ淋〜り

全

除え〜吟

泉別

名を〜つ〜風もするや也湯の真

嵐竹

を貞福のさうらあ〜ま〜の言

全

除元之吟

因省

深出々や柳八みとり花の妻
 見うらむ八日とさく廣也明の妻
 下門の繁りともさき也初みとり
 関の戸をひらく音あり初日の出
 大海考よる木の松乃剛隆か
 徳よ入門の之部や明の之部
 葉より年の車や初曆
 炭取の瓢も今彩也玉の妻
 世事貴人
 破道目を澄ひは舞也いなり
 潔し文に葉書れ人通

横塚

芳隆

素兄

徳雨

祇一

雨人

祇陽

徳鶴

素兄

芳隆

艸叟

機端よし縫は舞り屠蕪袋
 折よむ於浪のすくや幸のこれ
 梅う香枝もよるや年才昔
 世より浪も静や大晦日
 取中若く合点かや大晦日
 除元之吟
 武員
 徳鷲
 祇陽
 雨人
 祇一
 艸叟

初日より下や心乃むむら
 身ハ一ハ氣配り多き師走か
 茶の字よ叶の福あり勝茶葉
 明日ありとつとさき也小晦日
 春心よりさきも元のすくさ
 大屋邑
 祇室
 全
 筑紫
 雲子

元旦

相州下溝室壽堂

葦の春何うも咲む袖奇草
初まき乃巻り歯固の歯は
震らむ省の夢も香居し

除元之吟

同所

杉風を枝よと久々も鞠か
於く水も母の筥を感言ぬ
全 祇麓

さへん

下溝

待ゆより葦の春
一簣

猿嶋

んうへえ一用きぬ 葦の春
月江

同

杉の豊り 初日
素川

新戸

呂一教 蒼くくくく
艸玉

猿島

かさりそ糸のくくく玉のきりく那
けりや月日の飾のやすくそ
全 丈水

除元之吟

八王子

あゝや老も隔てぬ人障り
雷女

ぬまの酒を止まらう

急いせぬくくく年々
全

嬉しさを死 初もや 松傍
吾州

風流の路中か野より 蝶くくく
全

えりや翠も目半夜 松乃風
竜逕

年一扱 扉もくくく
全

除元之吟

鏡より 心もくくく 花乃美
半林

かたきよしの 改まらざる年の関

半林

全

大あつ子 皴のたしりり 毒法師

古学庵主

随竹

まのまよしーの 崩とすや竹乃 爲

府中

全

く川を也 行似やハキ 鶯の声

魚腮

ーの 崩を越さる 老れ笑ひ小

全

際えし吟

尺さかしのもの 新らー也 今朝の雲

豆州肥田

祇王

働らきのよふ 枝さるや 今の梅

全

除元之吟

其しつよ一 字やさるも 今朝の雲

上初高崎

其磨

相船もゆしーの せゆさーの 彼

全

追加

花 聾の 窓 月よとや 暮 萩うら

騎西

得牛

きくくぬ 昔くくく川くくく け 鐘

全

門 松乃 縁りー 湯よ 古 琴

祇棠

観 音 堂 浮世の 昔 画や 年の 奥

全

門 松乃 戦キヤ 庭の ころもち

鳩ヶ谷

其舟

一日計者在 雞鳴

古河南毒舎

ひしーせの 笈ひくく 免や 雜 煮 時

故由支

越て 見む 今 する 年の 夕 境ひ

全

幡刈姫路

初 冬 也 湯 釜の ちよふ 申くく

祇應


追加春興

白魚を 僧も妻 蟹と云れり
 池の雨よ ころころ 蛙小
 全
 水笥よんよ 皺もたよりりり
 霜磨の 痒も 撞れ 蔭處
 敲石 榴里

歳暮之吟

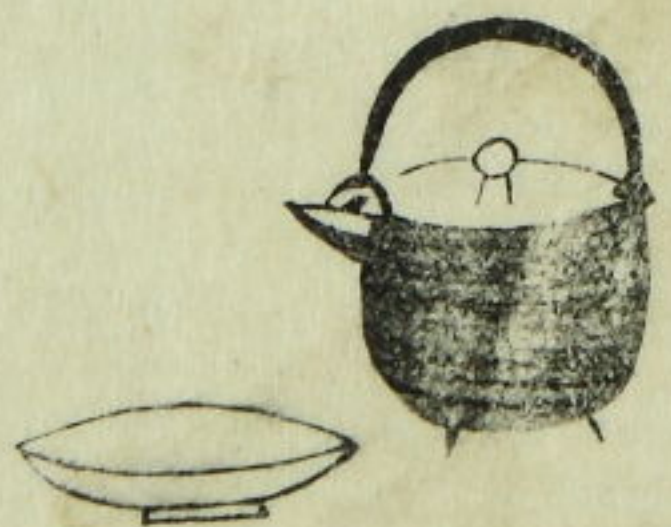
連歌司の 五麗子

ま〜も
 キ〜ほく
 江戸代



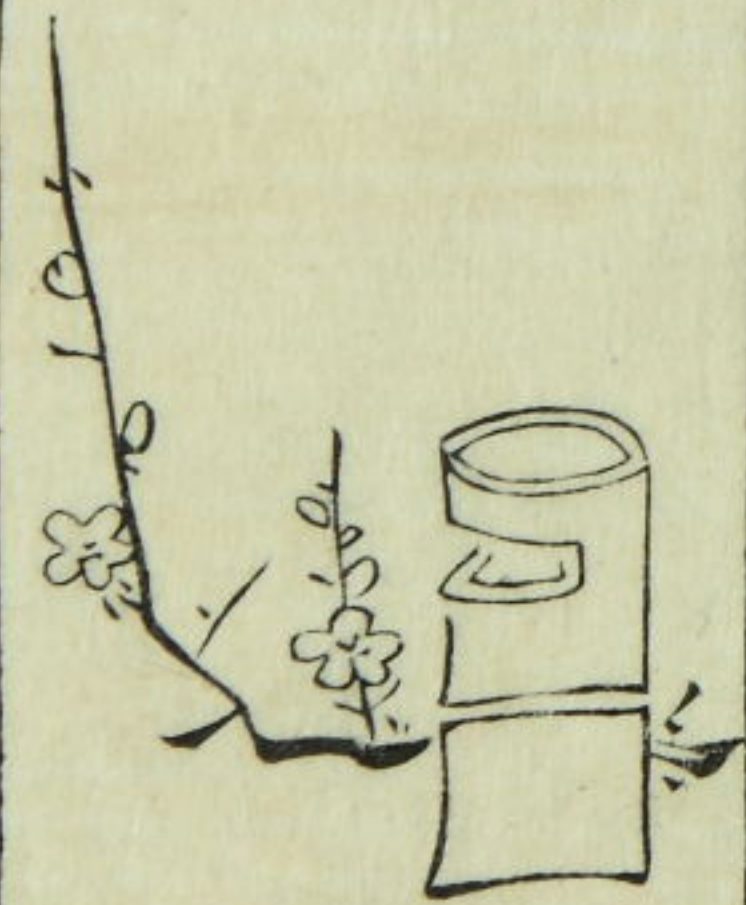
年忘連 圓十

わすれぬ
 忘〜まりよ
 りり



梅生て 芳徳

〜の二枚を
 ほさ〜や



朝の妻よ 月あり 影や 暁を 猫 寥和

使〜の〜の吟を
 こ〜かよ 撰者の寸志なり
 け〜の〜の〜や 岩のる 爲邦

五十年 詭譎とてとてとて

空翠

全

さりきり 液一舟まり師をい
白きしり 煙や餅のたくり

團齊 範路

全

人ハ心さきもーよる奉の書
果報ハ房く待や物らさ太帝月
手土産やまを枕い冬の市
候揃や家お庭 乃 鏡山

六窓 雪丸 竹賀 竹魚

全

下戸道ハ右リ たりとてとて

晋阿

か〜しーとせりぬ社くそ
習ハ又 存勢の候 萩奉一 夜

尹督 雪齋

全

いさしり 川松賣のきおひか
獅子も尾を股に挟むや大晦日
世の中よ 朽らるる一も 夜配り

暁古 御風 漢眠

曙もまた自立の齡を壽〜

待けり 北斗の氣〜奉書〜

竹塙館

全

宵か〜き 師老の人乃 笑顔か
挑灯ハ 日中晴や 大晦日
みる 魚をよよひる 言和布妙か

拾葉 野翠 寫國

全

さきさきくわい古依見記や難う
我病の傍よりしをまを
人の世とらるるく師毛の月夜か

百庵
風塵
業揚

全

落葉まきくわいく曆の古ひる
けりなれ一秋もく連し梅の宿
喜むきくわい生碎や大晴日
けり年や楽しむくわい梅の宿
振向をせくわいき年けり泣く

柳水
都橋
尖麗
有志
雨鳥

全

三月の役者つけ又月の夜の市

百宇

除臘

年の序をえんせり人せはけり

斗南

いづる心哉

境より偽えんせり書の

御柳

急景

とくわい世をけりくわい
まのくわい白くわい椽金乃紋つ

貞風
園二

窮紀

曙一肌のくわいかりくわい
まのくわいゆくわい豊なり

以徳
おらん

老母とて遠くわいそのまの
やりわいをくわい

考松乃くわいひるくわいの市

長秀

道は行くも吾は行ふあり年の煤
あゝ源一真一ハ迎き年のくら
市もろや何賞はとも年くくよ

眠竜 志景 音好

歳晏

白梓も湯よあゝくまゝ師走も

桃鏡

桃鏡 予の病を尋る日

あゝら菊也是も病乃ゆりま

祇徳

日向を志く霜月乃蠅

桃鏡

能キ家と人の長び栖ま

卯雲

除日

勤してねくの酒子毎うれぬ

山猿

いへ中を年房くと年如言

田耕

全

け年も却く色一始りから

旧室

塩かりよ押一つ先り赤鱗

蒼瓶

去秋を志くぬ虫あり年の昔

賢冲

全

天元の市は勢ひやよらんぬ

曉翁

年波も何苦言なり一筆の款

北支

繰返り年の様もや糸車

覚捕

歳暮

残梅の目かゝるも冬や年の奥

長隱

歩佛れきしるも師走か

白雨坊

風土庵

金竜山下

守歳

さるるしよき事ありて人のし
御しるぬ人も字世の師を
よししと今もはらぬ庭の樹

全

卯雲
祇軟
官枝

おるるしよき事ありて人のし
おりしよき事ありて人のし
よししと今もはらぬ庭の樹
年の所も回しあや牛車
門松の根つよき事ありて人のし
よの事ありて人のし
世よはらぬ越ぬ人ありて人のし

祇戴
竹翠
祇完
竹踏
曾隠
祇令
祇章

全

白梅や代はゆき年の内なる
よししと今もはらぬ庭の樹
世ハ師をよき事ありて人のし

全

千石
官枝
五声

おかりぬ年の師をよき事ありて人のし
け人のぬき事ありて人のし

全

艸也
祇仙

正月とらまぬ自ら師をよき事ありて人のし

文郎

左右之吟

おかりぬ年の師をよき事ありて人のし
馴くよき年の師をよき事ありて人のし

梵薩
佛因

煤掃や 一日れ 葉門

波道

我宿の煤の日とまらうのうら
好癖の池底よつらかりしは
父母の望固も若まするのや
あまらうてりやせのやと
父のたしき(ん)あま和漢の
程しうら

盆あらし師をあらしすよ年を
祇尹

季子冬

あらしまをさ字よあらし
繰返はみよいよ年
年とまらう古口の
年の産やふの海日もあらし

祇朴
此友
藤里
荷山

四極

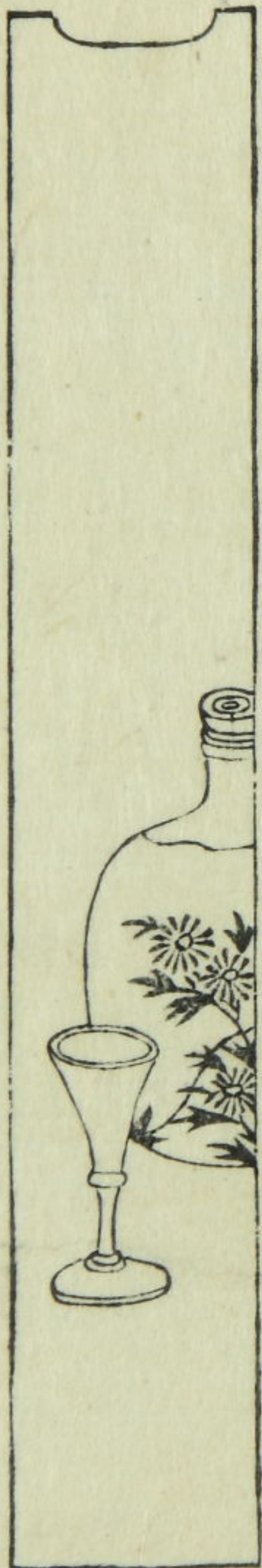
煤たまりやまの手傳よ山かつ
一二輪ま待林乃矢款う那

祇蓮
葎脣

全

大首の一夜ハ皺乃のひち
塵子深んりや煤をひ

平澤
釋
隨貞
祇獨



一飲く予よは足まら年
酒厚一季の名張乃下
あまらうの日の那まや年
長季よまじ支度やぬ

露紅
祇因
雪牛
祇門

殷正

咲きし川の枝ありて年の便りか

涼葉

節季は阿のまのまの柏子か

祇文

明日ハ系大晦日とらりよりり

祇哲

り年ハ因ちハ誰ノ鐘ノ声

祇立

抄冬

千羽鶴居りよ去れ日や年の昔

宗古

花も一欠花の納冬やとりの梅

百芽

濱草や二とくさうとぬとりの市

儿上

よふ切しよつらみく結や年の松

松翁

全

老くくろ人志さひなり年の昏

嵐宇

梅うあやそくく送る年の風

暁井

梅う香よ喜や歌くやとりの窓

徳助

年の因遠け物よ居る梅

孤堂

大呂

目もさやふゆもそおすよ大晦日

梢雨

来る真れ人質ハあり梅のそま

麦斗

残冬

降しつとも葦笠賣人冬の市

祇莊

燭もきや嵐やとく窓付舟

大楯

市店催春

人足も流石よ真れ隣り

尤竹

歳末

あつさの同し調子よき
今もれす中へ忘れ
以年やひりし暮西舟舳の飾

祇元
祇道
得二

抄冬

けうせのよきまのそは
とりの川流れよき
羽よのよきまのそは

居燕
君山
魚光

祝退隱

君が祿讓執一字也
分別のうらぬ色や年のられ
梅白しそくしきや

琴水
水羅
祇章

抄冬

兼ぬううも恥す
民の戸も賑ふ候也
候者乃喜也師を

祇正
仙呂

玄眞

候者乃喜也師を
車舟の音や文り大晦日

徳雅
祇達

上天

浅きやあらん限る年の市
行年哉巻の初光りり古暦

湖北
徳阿

律檀

髪ゆめく人乃師を
師をまゝく鬼を

水光
徳丸

花〜〜〜咲せて見せん昔の候

徳和

全

万歳の日水よ昔も師も小
もち花もよりの奥は白ひうら
祇小酒氣昔使れ笑顔可南
年の好〜〜るさ〜〜也六晦日

了徳
水郷
祇芳
竹如

元英

春一子の宿くや年れ一板松
園の戸をぬらとも集也〜〜菴
翌解るおも年れ入江子
松弁れよよきも山〜〜の園

祇風
祇陳
祇赤
祇水

殷正

引もせぬ池さくられ〜〜昔ぬ
翌を花よぬよやき年の福赤草
傾城乃衛士う焚火也除救の意
師も小軍照〜門乃人通り

珪外
野采
雅赤丸
采砂

弟月

満る所也さうやく声れ扇子賣
年の園六十一足と端〜みぬ
又今年人〜〜下〜昔〜りり
昔〜も流る時代乃〜〜川か
年の尾よ我尻取〜

祇蓉
祇毛
葦暁
儿文
祇晁

お明〜久

年の度也千あはれ〜下〜

百貫

童子淺淵向くや年の川
おしとくも師之世と町乃事

梧栖
稻波

守歳

志のりふして行志のりなり事の秋
とくくくくくくくくくくくくくくくく
秋さく門乃成りや省れ写
八十氏の吉更造るや固兄山
世の人れ事や年れ亦沈ひ

立德
水室
冬扇
余月
信夕

顛頊

一日れ思乃くくくくくくくくくく
子寶や人よりんせくくくくくくくく
賞ゆくく地福居くく年筆

宗成
宗吟
來德

旅よりいハ年の納乃ふええり
福内乃夢ひさきより年の宿

完二
福來

采室よりく

一とせと工夫して見よ十二棒

向意

大呂

佐保姫をす川松や年れ鏡の間

船歩

春待月

堪忍のとくする年やかく宛
此年より夏のくくくくくくくくくく
扱ハ九ツ年れ別進乃撞つきぬ
我も今もくくくくくくくくくく
昔くくくく年の尻振くく父鴨

竹堂
素徳
祇圓
祇庸
百梅

かつともくま系の一文字の足さぬなり

祇貞

大尾

面六句

光俊の縁
おひよせて竹隠者

け事も自在なれよて自らぬ

祇徳

終よそくぬあつて冬

水光

かかま餅とまきの声もて

呂隠

ごしりと句をすゝる音

梵薩

樹くの月塚く遠入掃除口

涼葉

小萩あら萩むすたの萩

居燕

彫工西村新助

追加

予わつてとき

通茂卿の御金言を世のま

こと事とおろくおひのけり

相魚の潜勢よあまの老仔

つれづれな

詩いやく歌よきいなり春

無徳

自在先生の門子入て

まのりやうふ徳子入門かたり

祇山

神みまや子く小常ら玉の喜

如暁

白梅も笑顔つるやのくの

詠雪

右春帖里二月出梓 ねまき自土波

